



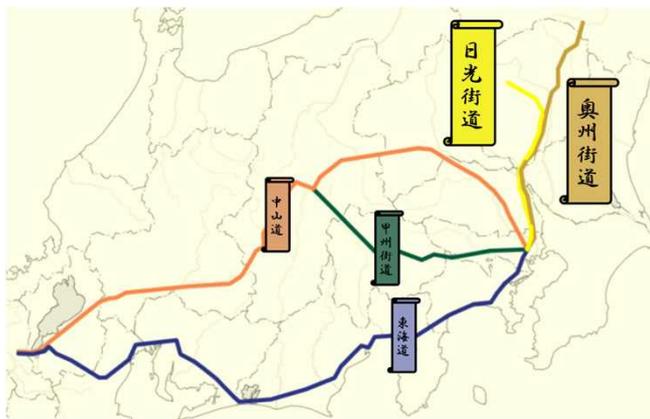
関東運輸局

Kanto District Transport Bureau



日光・奥州街道ってどんな道？

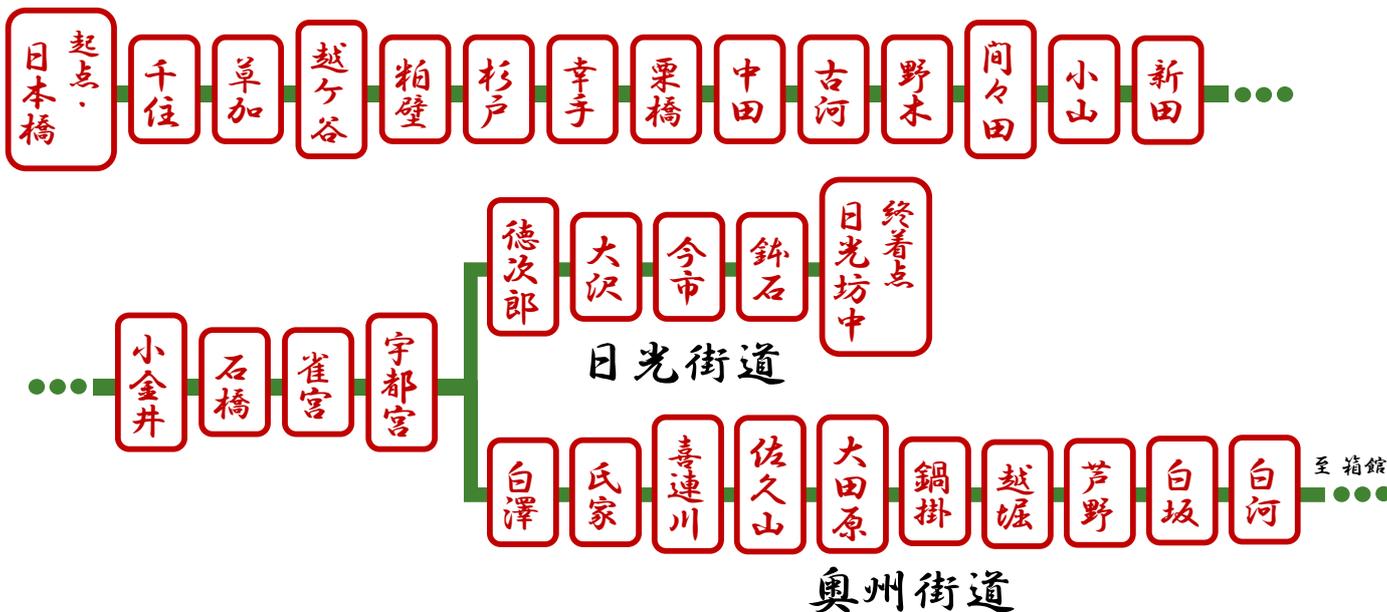
江戸・日本橋を起点として千住を通り、日光街道は日光坊中（日光東照宮）まで、奥州街道は陸奥白川（白河宿）まで(*)を結ぶ街道です。2つの街道は起点から北上し、下野国・宇都宮宿でふたつに分岐しています。※白河以北～箱館までを含めて奥州街道と呼ぶ場合もあります。



奥州街道の原型は、奈良時代に整備された、本州内陸部を通る中世最長の道「東山道」であるといわれており、江戸時代に幕府によって、東山道のうち日本橋～白河が「奥州街道」と定められました。

また、日光街道は1617年に家康が日光東照宮へ祀られたことにより、歴代将軍や諸大名が参詣を行うために整備されたことは有名です。五街道のうち、その他の街道は物流や往来を目的としている中、日光街道は特別な立ち位置であったとも言えます。

宿場一覧 (広域関東エリア)



その歴史、さまざまなり

宮内庁埼玉鴨場

皇室が伝統的な鴨猟の技法を保存するとともに、国内外からの来賓をお迎えし、おもてなしをする施設として、明治41年に埼玉県越谷市に開設されました。現在でも、この伝統技法の保存に大きな役割を果たしています。

また、捕獲された鴨はいずれも標識をつけ、生態調査のために放鳥されています。普段は公開されていませんが、年に数回開催される一般客向けの見学会には多くの申し込みが殺到し、注目を浴びるスポットです。



写真提供：越谷市

日光の山岳信仰

比叡山・高野山などで知られる、山々を神や仏が宿る神聖な場所として崇める「山岳信仰」の文化。仏教における山岳信仰の先駆けは日光にあると言われていす。奈良時代の西暦766年、上道勝人（しょうどうしょうにん）が輪王寺の起源とされる四本龍寺を建立し、日光山を開山して以来、日光は山岳信仰の聖地として多くの人々が訪れる地となり、発展していきました。



日光・奥州街道沿いの観光コンテンツ (一例)

草加 草加松原の松並木



写真提供：草加市

草加市の中心部を流れる綾瀬川沿いの遊歩道には、松尾芭蕉の名作「おくの細道」の風景を現代に伝える圧巻の松並木がそびえています。

粕壁 首都圏外郭放水路



広大な地下の空間に巨大な柱が立ち並ぶ様子が「地下神殿」と注目を集め、インフラ施設ながら一般観光客向けの見学コースを開設しています。

野木 ひまわり畑



写真提供：野木町

毎年夏に開催される「野木町ひまわりフェスティバル」では、およそ4haの広大な畑に30万本ものひまわりが咲き誇り、フォトスポットとしても人気です。

宇都宮 大谷石採掘場



採掘場独特の風景をライトアップを用いてさらにミステリアスな雰囲気に演出。観光のほか、ロケ地利用などでも人気を博しています。

日光 奥日光の湿原



都内からほど近いアクセスで、圧倒的な自然を体感できる奥日光。戦場ヶ原などの湿原エリアには木道が整備されており、ゆったりとウォーキングを楽しむことができます。

喜連川 喜連川温泉



写真提供：さくら市商工観光課

国内有数の優れた泉質を有し、「日本三大美肌の湯」のひとつとしてPRを行っているのが、この喜連川温泉。JR氏家駅から無料送迎バスを運行しています。

ご当地グルメも盛りだくさん！

草加 草加せんべい



越ヶ谷 こしがや鴨ネギ鍋



写真提供：越谷市

宇都宮 宇都宮餃子



白河 白河ラーメン



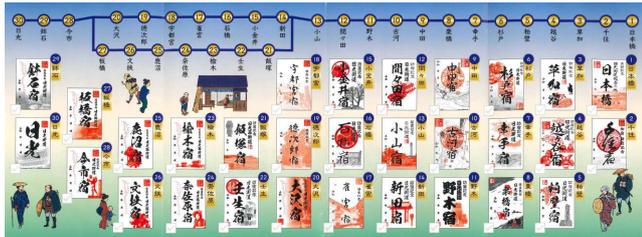
写真提供：(公財)白河観光物産協会

実際に行われている街道観光の取り組み

御宿場印プロジェクト

足立成和信用金庫が発起人となり各地の信用金庫や観光協会等と提携し、日光街道・日光西街道の全30か所で御宿場印を販売しています。

「御朱印」のように「御宿場印」を集めながら宿場町を巡る旅を楽しんでもらうことで、地域経済の活性化を目指しています。



埼玉六宿ぶらり街歩き

日光東照宮までの長旅を支える宿場として、埼玉県内には6つの宿場町がありました。町の各所には今なお当時を思わせる史跡の数々が残されており、埼玉県物産観光協会HP「ちょこたび埼玉」内にて、六宿の史跡や史実が、宿ごとに紹介されています。



提供：(一社)埼玉物産観光協会



大内宿 (鵬往還・下野街道)

昭和56年に「国選定重要伝統的建造物群保存地区」に指定され、茅葺屋根の民家が立ち並ぶ江戸時代の面影をそのまま残した宿場町の風景を守り続けていくため、地域が一丸となって「売らない・貸さない・壊さない」の3原則のもと、様々な取り組みが行われています。



写真提供：大内宿観光協会

主役は地域の皆様です！

「地域の魅力をもっと発信したい！」「地域に活気を取り戻したい！」江戸街道プロジェクトは、そんな皆様の想いに応えていきます。

自治体の枠を超えて繋がる“道”。そこには歴史や文化、自然、食、温泉など、魅力的な観光資源が点在し、旅行者と地域、そして人々の心を繋いでいます。このプロジェクトは、地域の皆様に街道観光を推進していただくことを目的としており、関東運輸局はその活動の道標をお示しできるよう、取組んで参ります。

有識者のひとこと



(公社)日本観光振興協会
総合研究所 顧問
丁野 朗 氏

かつて十返舎一九の滑稽本「東海道中膝栗毛」と歌川広重「東海道五十三次」の浮世絵は、日本初「旅ブーム」の火付け役となりました。弥次さん喜多さんが感じた「怖いもの見たさ」「滑稽さ」そして美味しい「名物」に引き寄せられるのは、当時の人々も今の私たちも同じです。

近世初頭、徳川家康が拓いた江戸と各地を結ぶ5つの街道（五街道）は、数多くの脇往還とともに、まさに江戸の経済と文化形成の根幹となりました。私たちは、これを「江戸街道」と名付け、未来に向けた新たな地域連携と活性化のシンボリック事業を目指しています。本プロジェクトが、現代人を新たな旅の楽しさに誘う、きっかけづくりになれば幸いです。

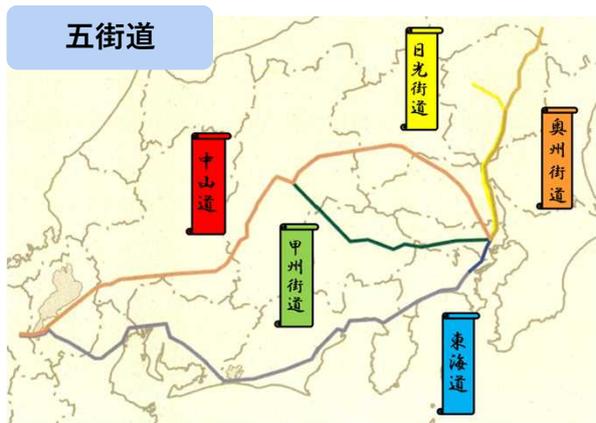
江戸街道プロジェクトとは

江戸時代の創成期に徳川家康が交通の要所として整備に取り組んだ、日本橋を起点とする「東海道」「甲州街道」「中山道」「日光街道」「奥州街道」の通称“五街道”と、その“脇往還”として整備された「水戸街道」や「成田街道」など。

関東運輸局では、これらを含めた広域関東エリア*1の街道沿いに散らばる魅力的なコンテンツを、『江戸街道』という統一テーマにより新たにブランディングをはかります。

本プロジェクトは、官民一体となって広域関東の魅力国内外へ発信し、コロナ禍で疲弊した地域に元気を取り戻すための新しい試みです。

*1 福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県の1都10県



◆ロゴマーク

街道ブランドによりこれからも様々な歴史を結ぶことを象徴的に表現するため、濃い色から広がる5色のラインは、地域それぞれの特色ある営みが詰まった歴史を未来に向け発展していく姿をイメージし、円環の2色は広域関東の海、山等の豊富な自然を表すデザインとしました。



リンク

プロジェクトHP



YouTube
(シンポジウム映像)



関東運輸局
Facebook



製作：国土交通省 関東運輸局観光部

2023. 6月版